第７章　富士山の恵みと御殿場の未来

御殿場市は、世界文化遺産 富士山の麓、四季の風情豊かな高原都市です。首都圏から 80km 圏内と交通至便、富士箱根伊豆国立公園の中枢に位置する観光ハブ都市として、観光交流人口は年間 1,400 万人にのぼります。

また、富士山や周辺森林への降雨が育む豊富な湧水や伏流水、清浄な空気を生かし、多様な産業が集積しています。地ビール、ウイスキー、日本酒をはじめ、ごてんばコシヒカリやわさび、水かけ菜、お茶などの農産物や名物「みくりやそば」、富士山に魅了された外国人が伝えた手づくりハムなど、富士山の麓ならではの恵みに育まれるまちです。

富士山の懐に抱かれた豊かな自然、美しい景観、おいしい水、そこに住まう人々の心の温かさ。こうした富士山の恵みは、御殿場市民の誇りです。

富士山の恵みに育まれる優れた環境。それは同時に、地球温暖化やそれに伴う気候変動、プラスチックごみによる海洋汚染等、地球的規模で拡大する環境問題に対し、国際社会の一員として本市が担うことのできる役割と、都市としての発展の方向性を示しています。

本市の環境に対する様々な取組を一層推進し、富士山の麓から「環境都市」としてのあり方を、そして、その魅力を世界に発信していくことが、本市の発展のみならず、近隣市町や静岡県の地方創生、さらには東京一極集中の是正による国土強靭化など、コロナ禍からの教訓を生かすとともに、発生が懸念される首都直下型地震にも備えた、新しい国づくり、まちづくりの方向性にもつながります。本市の環境に対する取組が、新しい国づくりの中で、大きな役割を担うという考え方です。

本章では、「環境」への取組をキーワードとし、世界遺産 富士山をいただく御殿場市が、我が国の環境を世界に発信していく中心となるまちとして発展していくための、未来に向けたまちづくりについて考えていきます。

富士山の懐に抱かれる御殿場市

1．これまでの本市の取組

本市における富士山の麓の恵まれた環境を生かした取組は、平成 26 年度から３か年にわたり実施したモデルフォレスト事業を端緒とし、世界遺産富士山の麓にふさわしい、優れた環境と景観の形成と産業・経済振興が好循環するまちの実現を図る「御殿場市エコガーデンシティ構想」に発展しました。

令和２年２月には「ゼロカーボンシティ」への挑戦を宣言するなど、市民とともに、そして、産・学・官・金などが連携して、富士山の麓から、国際社会の一員として地球温暖化・気候変動問題を克服するための取組を推進しています。

※　モデルフォレスト事業

戦後の一斉植林が伐採期を迎えるなか、外国産材の流入や木材価格の低下等により、森林整備の遅れが全国的に課題となっている。そうしたなか、東京大学森林学研究室の協力のもと、産学官連携により、山への負担が少ない森林整備方法や未利用材などの里山資源の活用について検討するために、平成 26～28 年度の３か年にわたり実施したモデル事業。

◆　御殿場市エコガーデンシティ構想（平成 29 年度～）

○　目的

世界遺産富士山の麓にふさわしい、優れた環境と景観の形成と産業・経済振興が好循環するまちの実現。

○　６つの重点項目

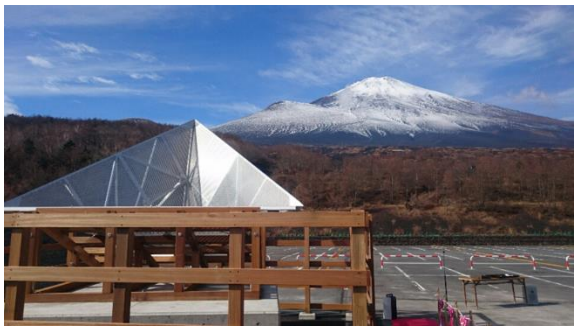
1. 世界遺産富士山の前庭にふさわしい景観の形成
2. 自然との共生・里山づくり・生物多様性の確保
3. 再生可能エネルギー導入など地球温暖化対策の推進
4. 環境・景観保全を支える先端技術の活用（IoT、AI、ドローン等）
5. 地域資源を活用した商品開発やエコツーリズムの推進
6. 6R の推進など循環型社会の形成

○　10 の連携プロジェクト

重点項目に基づく、産官学連携と市民参画によるプロジェクト

1. 箱根山系の保全と活用（富士山ビュー活用）
2. 富士山桜いっぱいまちづくり
3. 家・庭・コモンスペース創造によるコンパクト・ガーデンシティ化
4. ハイブリッド車用充電池リサイクル
5. バイオマス利活用推進
6. スマートファシリティ普及促進
7. マイクロ水力発電普及促進
8. 御殿場型エコファーム
9. ドローン等による環境保全・防災等推進
10. 水素ステーションの活用

※　地域のニーズに応じて新たなプロジェクトを順次追加



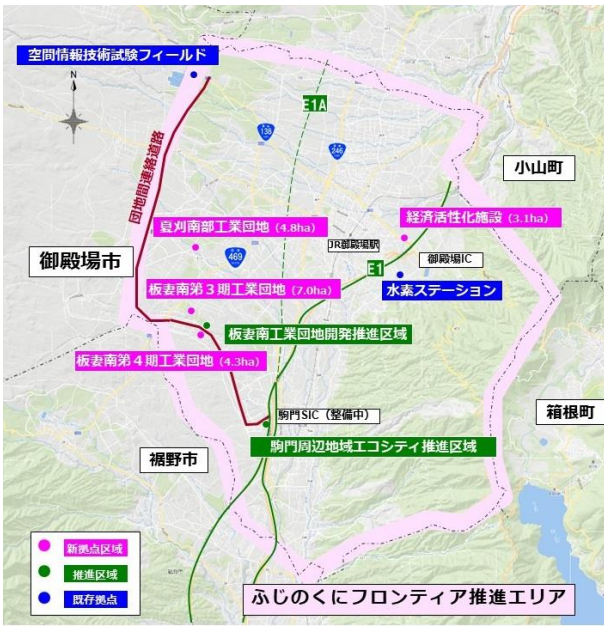
地球環境保全に寄与する JAXA コーナー
リフレクター（富士山御殿場口新五合目）

環境・景観形成と地域経済活性化の好循環

○　御殿場“エコガーデンシティ”産業立地促進エリア（令和元年 11 月認定）

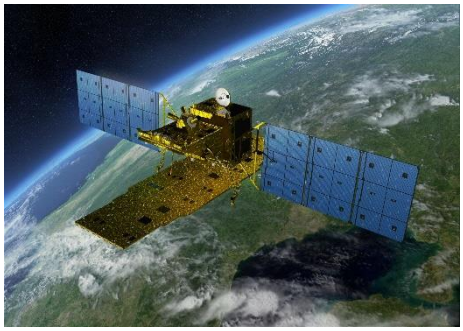
市街地の富士山側外周をつなぐ団地間連絡道路（令和３年度開通予定）と箱根山系に囲まれたエリアが、静岡県による「ふじのくにフロンティア推進エリア」の第１号認定を受けました。

これは、先端技術を活用し、持続可能なエネルギー利用と低炭素社会を実現しながら、地域経済の好循環を目指すエコガーデンシティ構想実現のための先導的モデルエリアとして、産業の立地を促進していくエリアです。企業立地に際して様々な県の支援を受けることができます。



◆ JAXA との連携

宇宙航空研究開発機構（JAXA）との協定により、地球環境を観測する人工衛星「だいち２号」の運用への協力、衛星データの防災活用、未来を担う子どもたちへの宇宙科学教育、国際協力機構（JICA）と連携した開発途上国の森林環境の監視活動にも貢献しています。



人工衛星「だいち２号」

◆ 先端企業との連携

市内には、日本を代表する環境企業（2019 日経 SDGs 経営大賞で環境価値賞受賞）である株式会社リコーの環境事業開発センターがあります。同社と本市は、全国に先駆けて平成 29 年に包括連携協定を締結、環境における最先端技術開発に向けた実証実験を、官民連携で進めています。

マイクロ水力発電の実証実験

また、大学や企業からなる「地上調査のための UAV（無人航空機）」運用研究会と包括連携協定を結び、多様な地形要素や建物配置を有する加藤学園御殿場キャンパスを活用したドローン等による３次元測量や森林保全等の実証研究に協力しています。

測量・環境保全・科学教育・景観保全・農林業・防災減災などのまちづくりにおける連携を進めるとともに、研究開発や教育普及の拠点「空間情報技術試験フィールド」として活用しています。

KDDI 株式会社とは、情報通信技術を活用した連携等を進めています。

◆ ゼロカーボンシティ宣言（令和２年２月）

2015 年に合意されたパリ協定では、地球温暖化・気候変動問題について、「産業革命前からの平均気温上昇を 2℃未満とし、1.5℃に抑えるよう努力する」との目標が国際的に広く共有されました。こうしたなか、化石燃料から、燃焼させても CO_2 などの温室効果ガスを発生しない水素エネルギーなど新たなエネルギーの活用への関心が高まっています。

御殿場市は、国際社会の一員として、また、世界文化遺産富士山の麓にふさわしいエコガーデンシティを目指し SDGs に取り組む都市として、市民や事業者の皆さんと共に、脱炭素社会の実現に貢献するため、2050 年までに市内の CO_2 排出量実質ゼロを目指す「ゼロカーボンシティ」へ挑戦することを宣言しました。

静岡県御殿場市長　若林　洋平　殿

貴市におかれましては、この度、自治体として2050年の温室効果ガスの実質排出量ゼロ（ゼロカーボンシティ）を目指されることを表明されました。今回の貴市の表明をもち込まして、ゼロカーボンシティは国内で35自治体となりました。我が国としてのパリ協定の目標達成に向け、大変心強く感じております。

先日、国内各所に甚大な被害を及ぼした台風19号の事例に見られるように、温暖化の進行は、今後、このような災害等の更なる頻発化・激甚化などが予測されております。こうした事態は、もはや「気候変動」ではなく、私たちの生存基盤を揺るがす「気候危機」と認識するべき事態と考えております。

2015年に合意されたパリ協定では「平均気温上昇を2度未満とする」目標が国際的に広く共有されました。この目標の達成に向けては、各国政府関係者の努力にもとより、地方自治体を始めとしたあらゆる主体、ノン・ステート・アクターの取組が極めて重要です。

環境大臣として、スペイン・マドリードで開催されたCOP25で発信し、国際的にも高く評価されたところです。こうした日本国内の方策の取組をしっかり発信するとともに、パリ協定の目標達成に向け、貴市及び他のゼロカーボンシティとともに取組のさらなる具体化に努めてまいります。

環境大臣　小泉進

2. 未来のまちづくりに向けて

恵まれた環境をいかに残し、本市の魅力として世界に発信していくことができるか。世界遺産富士山の麓の御殿場市だからこそ、国際社会の一員としてなすべき環境に対する取組があります。

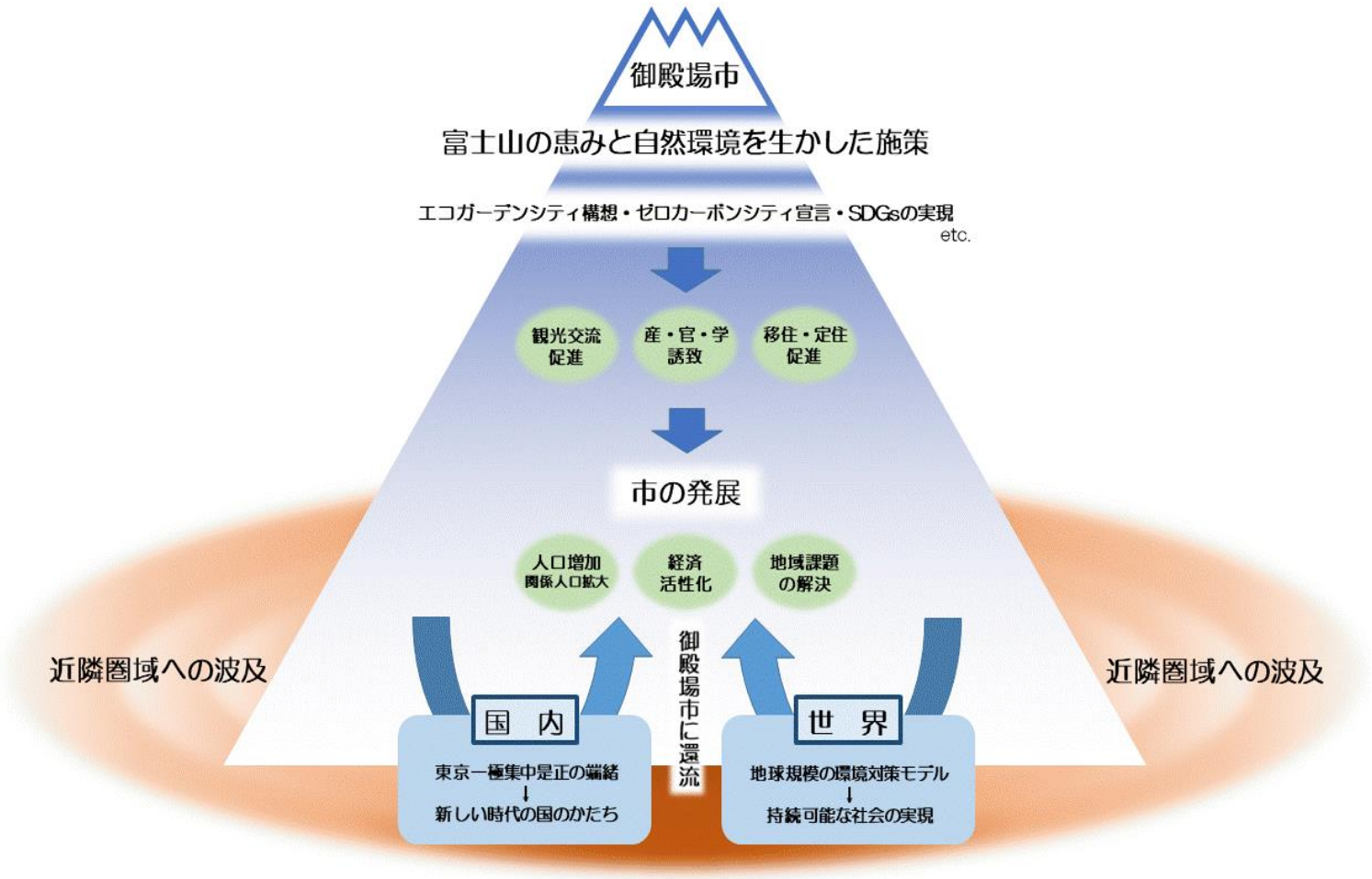
そうした取組が市民の生活にゆとりと潤いをもたらし、市の発展につながるとともに、本市のプレゼンスを高めることにつながり、東京一極集中是正など新たな国のかたちを創る端緒となります。

さらには、本市が地球温暖化対策など世界的環境問題解決のモデルを示すことで、それが更なる市の発展に還流されるような未来を描いていくことが重要です。

地球規模に広がる環境問題への対応が、国内はもとより世界における喫緊の課題とされるなか、環境に対する取組が御殿場の未来をつくるという認識のもと、「環境版シリコンバレー」の実現を目指し、分野別計画の各分野に掲げる施策を推進していきます。

“ 環境版シリコンバレー ” とは

世界遺産 富士山の麓において、日本の環境を世界に発信する「産」「官」「学」が集積した
未 来 都 市 像



3. 御殿場市「環境都市」宣言

地球規模で広がる環境問題への対応が世界的な課題とされるなか、世界遺産 富士山の麓における本市の環境に対する取組が、新しい時代の我が国のかたちを創る端緒となり、地球規模で広かる環境問題解決のモデルとなります。

世界遺産 富士山をいただく御殿場市が、我が国の環境を世界に発信していく中心となるまちとして発展していくことが、本市の、そして我が国の未来につながるとの認識のもと、御殿場市は、世界遺産富士山の麓の環境都市として、“環境版シリコンバレー”を目指した未来のまちづくりを推進し、世界に向けた我が国環境発信の中心地「ワールド・エコ・センター」の実現に向けた取組を推進していくことを宣言します。

環境都市宣言

今も進行する地球温暖化やこれに伴なう気候変動、プラスチックごみによる海洋汚染など、地球規模で拡大する環境問題は、この星に暮らす私たち一人ひとりにとって避けることのできない喫緊の課題です。

世界遺産富士山の麓の御殿場市は、国際社会の一員として、また、富士山の麓にふさわしいエコガーデンシティを目指しSDGsの実現に取り組む都市として、これまでも「ゼロカーボンシティ」への挑戦を宣言するなど、市民や事業者の皆さんと共に、環境に対する取組を推進してきました。

こうした富士山の麓の環境に対する取組が、市民の生活にゆとりと潤いをもたらし、更なる市の発展につながるとともに、本市のプレゼンスを高め、東京一極集中是正など新たな国のかたちを創る端緒となります。

今般、将来都市像「緑きらきら、人いきいき、交流都市　御殿場」の実現に向けた、第四次御殿場市総合計画後期基本計画を策定するに際し、世界遺産富士山をいただく御殿場市が、我が国の環境を世界に発信していく中心となるまちとして発展していくことが、本市の、そして我が国の未来につながるとの認識のもと、ここに御殿場市は、世界遺産富士山の麓の環境都市として、“環境版シリコンバレー”を目指した未来のまちづくりを推進し、世界に向けた我が国環境の発信地となり、また、世界中の環境に関わる人々が訪れる中心都市である「ワールド・エコ・センター」の実現に向け、取組を推進していくことを宣言します。

御　殿　場　市